

## 三重大学 食農サークル農らく 活動報告

三重県亀山市加太。水田として使われていた土地が、担い手の高齢化や獣害によって2m以上ある笹がうっそうと茂る荒れた土地となって数十年。少しの距離に名阪国道があり、車での交通の便は悪くないが、圃場の周りは山ばかりで景観はとても良い。そんな土地を耕作地に戻そうとしている小山新田環境保全営農組合と一緒に耕作放棄地を畑へと戻す開墾作業と、開墾した土地の一角を借りて営農組合の方の指導のもとで、炭素循環農法の実験圃場を管理する活動をしています。炭素循環農法とは、キノコを作り終わった後に残る廃菌床と炭素資材しか畑へ入れない農法です。



農らくは、小山新田環境保全営農組合の設立時から関わっていた学生と、開墾作業に集まった数人の学生とで2012年4月に結成しました。一見辛いと思える農作業。やってみるとやっぱり辛い。ですが、みんなでやると不思議と楽しい。これを伝えられればと、5月13日に新入生向けの農作業体験を実施。それを経て入った新しいメンバーと結成時のメンバー、年度途中から入ったメンバーの計12人の新米サークルです。外部顧問や営農組合の方、三重県の職員の方、亀山市の職員の方、JA鈴鹿の方などなど、たくさんの方々に支えられて活動しています。

農作業や自然を楽しみながら、食についても考えていくサークルです。

開墾作業は小山新田営農組合の事業で、約1カ月に1回程度で実施されています。作業はイベント化されることも多々あり、営農組合や農らくのメンバー以外にも、一般の方を交えて作業をすることがあります。作業をする際には毎回のように県の職員さんが炊き出しをしてくださり、バーベキューをして昼食を楽しみます。1月や2月頃には地域の方のご協力で、普段では食べることのできない鹿肉や猪肉も食べるすることができます。

作業はまず、笹を草刈り機で刈り取るところから始まります。うっそうと茂る笹を地上から 10cm くらいのところで切り倒し、乾燥させます。

写真は笹刈り風景。作業している人と比べると笹の大きさがよくわかります。



笹を刈り取った後は抜根作業。

まずは地中に張り巡らされた根を重機で掘り起こします。地中の根は固く、掘っても掘っても出てきます。

重機で掘り起こした後は人海戦術。大勢で根を拾い集めていきます。開墾作業の中で一番つらい作業です。開墾鍬やフォークを使いながら、地中から根を引っ張り出したり、土と根が塊になっているものから土を振り落したりしながら、根のみを集めていきます。



刈り取った笹や集めて乾燥させた根は、燃やして畑へ返します。燃やす際には周りへ燃え移らない様に細心の注意を払いながら燃やしていきます。近くで燃え上がる火を見るのは大迫力。作業後に煙臭くなることを除けば、やってみる価値は大いにアリです。

ここまで来たら、やっと畑へのスタートライン。耕作放棄地になる前は水田でしたが、現在は水路の関係で畑にすることになりました。まずはトラクターで耕します。重機など機械を動かす際は営農組合の方や、県の職員の方が活躍してくれます。



耕した後は畝を切っていきます。ここまで来ると、かなり畑らしくなってきました。

耕起の際もそうですが、畝を切っている最中も抜根作業で取りきれなかった根が、どんとどんと地中から出てきます。

畝を切り終わったら、炭素循環農法の要である廃菌床を撒いていきます。廃菌床はブロック状なので、手やスコップなどで崩してから畑へ撒きます。トラクターで耕す際にも入れるとより効果的です。右の写真の日は、同時に獣害柵も作りました。



鹿や猪、猿といった害獣対策のための柵は試験的なもので、現在扉の閉め忘れを除けば、鹿と猪の侵入は防げています。

写真は猿対策用の金具と網を取り付けた後の完成した柵です。柵は間伐材を使用しています。

畑では、雑草が生えてくるのを抑えたり、保湿、保温したりする目的で、ビニールなどで畝を覆うことがありますが、炭素資材を入れる目的を兼ねて木材チップで畑全体を覆います。右の写真はサツマイモを植えたときの写真です。茶色い木材チップが畑を覆っているのがわかります。



こうしてできた畑では、サトイモ、サツマイモ、ネギを作っていました。現在では、ニンニク、玉ねぎ、水菜、キャベツ、ブロッコリーを作付しており、今春にはジャガイモを作付する予定です。



加太の活動以外にも、10月14日に亀山駅で行われた駅サイティング祭では、亀山市の職員の方と坂本屋旅館の方のご協力で、農らく食堂という名前で飲食店を出させていただきました。三重県産のものにこだわったみそ焼き豚丼、みそ汁、お茶いろいろ、シソジュースを提供しました。

まだまだ小規模で組織として未熟な農らくですが、現在ある笹畑がいつかすべて畑になり、さまざまな作物が植えられている素晴らしい景観を夢見ながら、これからも開墾作業や実験圃場での活動を続けていきます。

活動に興味のある方は下記の連絡先へご連絡ください。

最後までお読みいただきありがとうございました。



#### 【連絡先】

三重大学 食農サークル農らく

E-mail : mieuniv.nogyo@gmail.com